

2020年8月31日

取り組み紹介～「本人ミーティング」を各地で推進

一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ(JDWG)

本人ミーティングとは

認知症の本人が集い、本人同士が、自らの体験や希望、必要としていることを語り合い、自分たちのこれからのよりよい暮らし、暮らしやすい地域のあり方を一緒に話し合う場。本人だからこそその気づきや意見を本人同士で語り合い、地域のさまざまな人たちとともに、よりよい地域づくりへ活かしている。

日本認知症本人ワーキンググループでは、全国各地で本人たちが中心となって開催することを推進している。

事例紹介：鳥取市

【取り組み概要】

認知症本人・行政・認知症地域支援推進員・認知症疾患医療センター・若年認知症サポートセンターからなる「認知症本人ミーティング実行委員会」を中心に、本人ミーティングを2か月に1回実施。

ミーティングの前または後に飲食を伴う交流会を行い、近況報告や情報共有ができる時間をとっている。

ミーティングは10数名の本人同士が輪になって、テーマに沿って話し合いを行い、周囲で専門職等が傍聴する。翌月には振り返りと次回の打ち合わせを行っている。

【新型コロナウイルス感染症拡大の中での、取り組み継続とその工夫】

大勢で集まることが出来ないのでインターネット(ZOOM)を活用。参加者は自宅、地域ごとに少人数のグループで集まる等、参加しやすい方法を選択できるようにした。また、なるべく多くの方に参加してもらえるように、インターネットが利用できる場所を探して、交渉を行った。

初めての試みなので、練習会をもち、安心して参加できるような工夫も行った。

当日は飲食を伴う交流会は中止。会場の一つとなった市役所では消毒を行うなど感染対策を行った。



【取組みの効果】

- ・普段なかなか参加できない人(県外の方や移動手段がなかった人)が参加出来た。
- ・ずっと会えなかったので、どんな形であれお互いの顔を見ることができてほっとした。
- ・もっと話をしたいと思う人もあり、ミーティングをすることの意義が確認できた。
- ・今後、施設に入所されている方であっても、本人の希望があれば、スタッフの協力を得て参加できる可能性が見えた。施設に入った方の希望にもなると思われ、検討していきたい。

<参考>

認知症施策推進大綱

第2. 具体的な施策／1. 普及啓発・本人発信支援 (3) 認知症の人本人からの発信支援

認知症の人本人が、自身の希望や必要としていること等を本人同士で語り合う「本人ミーティング」の取組を一層普及する。市町村はこうした場等を通じて本人の意見を把握し、認知症の人本人の視点を認知症施策の企画・立案や評価に反映するよう努める。